

学校教育目標	心豊かな子 たくましい子 自ら学ぶ子
目指す学校像	子どもたちが嬉々として登校し充実感に満ちて家路につく学校 ~みんな友達 笑顔の原小~
重点目標	1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 2 心身ともに安心・安全な学校生活の構築 3 学校、家庭、地域が、各々の役割を果たし連携し信頼し合う開かれた学校づくりの推進 4 リフレッシュ工事に伴う安全確保、及び子どもが安心できる環境づくり 5 「働きやすさ」と「働きがい」のある職場環境づくり

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心のサポートに関する取組

地域とつながりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

年度		学校自己評価				年度評価		学校運営協議会による評価
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日令和8年2月19日 学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、概ね良好な結果である。 ○9割ほどの児童が、授業を通してできるようになったことがあると達成感を感じている。 <課題> ○全国学力・学習状況調査等の結果から、自分の考えをまとめることや、既習事項を用いた解答に苦手意識がある児童が多い。 ○4割ほどの児童が、進んで発表することに苦手意識を持っている。 ○発達段階に応じたタブレットの活用スキルを計画的に高めていく工夫が必要。	・「学びのポイント（じ・し・ゃ・く）」の視点に基づく授業改善	①「学びのポイント（じ・し・ゃ・く）」を単元計画に盛り込み、探求的な学びを推進する。 ②「児童を主語」にした授業計画・実践を積み重ね、児童のエージェンシーを育む。	①学習課題や学習計画を児童が決める場面を設定できたか。 ②仲間と協力して考えたり、仲間の考えを参考にしながら自分の考えをもったりする場面を設定できたか。 ③学びを振り返り、新たな課題を見つける場面を設定できたか。	①学習課題や学習計画を学年の発達段階に応じて、全学級工夫して取り組んだ。成果を研修の時間に教員間で共有した。 ②全学年で仲間と協力して考え自分の考えをもつ場面を設定することができた。 ③授業マネジメントにより、学びを振り返る場面を設定できないことがあった。	B	・児童を主語にした授業は、学年児童の発達段階を考慮しながら行っていく必要性があることが明確になった。 ・「指導主事からの講話を聞く」「公開授業の実践を全教員が積み重ねる」といった、教員の指導力向上の取組を進める。	・タブレットの活用とあわせて、活字に触れる機会を増やしたい。子どもが多く通る廊下などに、気軽に本を手にとれるエリアを作るといった方策も必要ではないか。 ・大人が何かを提供する、という形だけではなく、子ども同士で何かを行う、「子どもを主語」にした取組を充実していく必要があるのではないか。
		・さいたま市スマートスクールプロジェクト（SSSP）の更なる推進	①タブレット学習の時間を毎週定期的実施する。 ②ICT活用系統表を作成し、学年ごとに身につけたいスキルを示す。 ③個別最適な学びのツールとして、タブレットを効果的に活用する。	①各学級でタブレット学習を定期的実施することができたか。 ②ICT活用系統表をもとに、児童のICTスキルを高めたか。 ③児童がICTを効果的に活用しながら個別最適な学びができたか。	①毎週水曜日にタブレット学習の時間を設定し、取り組んだ ②ICT活用系統表を教員間で共有し、特にタブレットタイムで活用した。 ③児童がオクリンク等のアプリを積極的に活用する授業実践が増えた。	・「タブレットは児童が使う物」を合言葉に、教員の苦手意識で使用しないということが無いようにしていく。 ・ICT活用系統表をもとに、学期末に振り返りを行い、着実にスキルを高めていく。		
2	<現状> ○児童アンケート「毎日元気に登校している」の質問に対し、肯定的回答が95%である。 ○保護者や関係機関と連携し、児童が安心して学校にいられる環境づくりを進めている。 <課題> ○「誰かに相談できる」の質問に、2割ほどの児童が否定的な回答をしている。 ○児童一人ひとりの状況を的確に把握し組織的な支援体制づくりが課題である。	・自己肯定感・自己有用感を高める取組の継続	①道徳教育の推進、児童を認める声掛けの継続等、児童の自己肯定感を高める教育活動を実践する。	①児童アンケート「学校への意欲」関連の肯定的な回答の割合が95%以上となったか。	①児童アンケート「学校への意欲」関連の肯定的回答93%。 道徳の授業公開やいじめ撲滅強化月間などの取組を定期的に行った。	B	・自己肯定感を高める声掛けを、学校でも家庭でも地域でも同様にかけてるように、学校運営協議会等を通して広めていく。	・あいさつと防犯の関係があると思うが、学校ではあいさつできて、校外であいさつができない子が増えてきているように感じている。あいさつをしたり、返したりすることのよさを言語化する等の支援が必要ではないか。
		・児童一人ひとりに寄り添った教育支援・相談体制の充実	①定期的な児童アンケートや面談等の記録を蓄積し、児童一人ひとりの状況を継続的に把握・支援する。 ②専門職による教育相談の調整等を継続して行い、学校に相談しやすい環境を整備する。	①学期に1回以上、アンケート及び面談を実施したか。 ②保護者アンケート「教育相談」の項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。	①毎学期、児童対象にアンケートや面接を実施し、いじめの初期対応等を行った。 ②保護者アンケート「教育相談」の項目の肯定的な回答93%。SCやSSWの相談回数が増加した。	・スクールダッシュボードの有効活用について、他校の実践等を参考にしながら、さらに検討していく。Solaの一むから教室に繋げていく手立てを構築していく。		
3	<現状> ○学校運営協議会において「豊かに関わる子どもたち」を目指すための具体的方策について熟議を重ね、地域の方々と児童とが交流する行事を実施した。 <課題> ○学校運営協議会における、児童の主体的な参加が定着していない。児童の意見が運営協議会に活かせるような工夫が必要。 ○コミュニティ・スクールの認知度を高めていく工夫が必要。	・学校運営協議会のシンカ	①学校運営協議会で熟議を重ね、目指す児童像の具現化や学校課題改善に向けての方策を見出ししていく。 ②委員会や児童会を中心に、互いに顔の見える交流活動を、ICT等を活用し企画、実践する。	①熟議を通して活動について具体的に計画し、関係団体等の協力を得ながら実践することができたか。 ②教員アンケート「学校と保護者、地域との連携」の項目の肯定的な回答97%。第2回学校運営協議会では児童会の児童が参加。	①7月の七夕まつり、9月の70周年記念行事を関係協力団体と協働して実施した。 ②教員アンケート「学校と保護者、地域との連携」の項目の肯定的な回答97%。第2回学校運営協議会では児童会の児童が参加。	B	・学校運営協議会、スクールサポートネットワーク、防犯ボランティア会議の役割や位置づけを明確にし、地域人材の授業へのかかわりを充実していく。	・授業参観等で、子どもが活発に活動している授業場面が減ってきているように思う。タブレットの活用も大事だと思うが、子どもが手を挙げて「はい」と元気良く手を挙げている様子を見ると、家庭も安心するのではないか。
		・目指す児童像を共有するための学校公開やICTの活用	①学校行事等の保護者・地域の方々への公開機会を精査する。 ②ICT等を活用し、学校運営協議会、コミュニティ・スクール、目指す児童の姿についての情報を発信する。	①学校行事等の公開機会を、学期に1回以上設定できたか。 ②保護者、教員アンケート「情報発信」の項目で肯定的な回答の割合が90%以上となったか。	①学校行事等の公開機会を、学期に1回以上設定した。地域の方と給食交流会を実施した。 ②保護者、教員アンケート「情報発信」の項目の肯定的な回答96%。給食試食会を再開し、保護者から好評を得た。	・ホームページにおいて各学年の取組を定期的に掲載しているところだが、保護者向けお便りアプリと併用して更なる情報発信をしていく。		
4	<現状> ○リフレッシュ工事に伴い、工事完了後の教室等は安全で衛生的な環境になっている。 <課題> ○リフレッシュ工事が今後約3年続くことに伴い、教育活動を停滞させない環境の整備、及び現状の環境下でも充実した教育活動の継続が必要。	・環境の変化に適応した教育活動の実践	①工事に伴う環境の変化に柔軟に対応し教育活動が停滞することのないように教室等の使用調整と安全確認の対応を不断に実施する。	①各教育活動に工事に伴う対応を折り込んだ計画を立案、実行できたか。	①休み時間を活用して体を動かす「運動キャンペーン」を、児童運動委員会を中心に実施し、多くの児童が参加した。	B	・今後数年間、校庭の使用可能範囲は変わらないため、児童の運動機会の確保は課題である。体育館の有効活用を検討していく。	・今後も安全確保をしっかり行ってほしい。
		・安全できれいな学校の実現に向けた安全点検の実施	①施設設備に起因する事故を起こさないために、定期、臨時、日常の施設設備の安全点検を確実に実施し、不具合への対応を迅速に行う。	①保護者、教員アンケート「安全」の項目で肯定的な回答の割合が90%以上となったか。	②保護者、教員アンケート「安全」の項目で肯定的な回答の割合98%。安全点検後の不具合対応は速やかに実施した。	・安全点検の確実な実施等を通して、全教職員の施設管理への意識をさらに高めていく。		
5	<現状> ○不断の授業改善に向け、教員一人ひとりが当事者意識をもって研修に臨んでいる。 ○学校全体としても個人レベルでも、働き方の効率化が進んでいる。 <課題> ○学校課題研究を効果的にやり、日頃の授業におけるICT活用の更なる工夫改善が必要。 ○教員が「働きがい」や「やりがい」を実感することができる取組が必要。	・「働きがい」を育む授業改善研修の充実	①各教員が目指す児童像を理解し、その具現化に向けた授業を年間1回以上公開する。 ②教員が校内で自己研鑽ができる研修体制を整える。	①授業を教員が年間に1回以上公開することができたか。 ②教職員アンケート「意欲・資質向上」の項目で肯定的な回答の割合が90%以上となったか。	①すべての教員が1年間に1回以上公開することができた。また、公開授業について、意見交換を行う等の協働的な研修会を実施した。 ②教職員アンケート「意欲・資質向上」の項目で肯定的な回答の割合94%。	A	・今後も互いに実践を発信し合うことで研修を深める。中堅教員による若手教員向けの自主研修会が行われるようになってきたので、OJTがさらに広まるようにしていく。	・教員のやりがいを高める取組が、「よい授業」という形で子どもたちに還元されると思う。教員同士の研修を通して指導力の向上に期待している。
		・「働きやすさ」を感じることが出来る業務改善策の具体化	①業務改善委員会を定期的に開催し、具体的提案を検討する。その内容を、全教職員で共有し実践する。	①業務改善委員会からの具体的な提案を共有し、実践することができたか。	①年間6回業務改善委員会を実施し、具体的な取組を実践に繋げた。教職員アンケート「業務改善」の項目で肯定的な回答の割合65%。集金を現金集金からデジタル集金に移行した。	・教員の仕事は事務的に効率化できるところと、できないところがある。各教員がこの視点で働き方を見つめなおす機会を、定期的に設定していく。		